学校番号	２１３

平成 31 年度　国語科

教科	国語	科目	国語総合(古典)	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「新編　国語総合　改訂版」　（大修館書店）						
副教材等	「プレミアムカラー　国語便覧」（数研出版） 「要点プラス　体系古典文法」(数研出版株式会社)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・物語や登場人物の人間像に思いを馳せることで、現代の社会や自身の心情との共通点を発見できるでしょう。物語に対する興味や登場人物への尊敬の気持ちを持つことで、現代に生きる私たちの生き方の参考になる部分も見つかるかもしれません。
・古文の言葉に慣れるには、何度も読むことが必要です。そのために、学習書や辞書を活用することは知識の幅を広げることに結びつきます。

2　学習の到達目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す･聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。			文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・学習活動への参加姿勢や態度 ・ノート、プリント、ワークシート			・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査	・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
一学期	説話	「ねずみの婿とり」	○			◎	○	a 古文学習に対する意欲を持つ。 d 音読し、ねずみの婿取りのいきさつを読み取る。 e 歴史的仮名遣いを意識しつつ音読している。	行動の観察
	説話	宇治拾遺物語 「児のそら寝」	○			◎	○	a 古文のリズムに興味を持つ。 d 児の心情の変化を捉え、話のおもしろさを読み取っている。 e 歴史的仮名遣いについて理解している。	・記述の確認 ・定期考査
	随筆	枕草子 「にくきもの」	○			◎	○	a 古文のリズム・言い回しなどに興味を持つ。 d 現代と通ずる感覚に気づき、面白さを読みとっている。 e 古文と現代文の単語の違いを理解する。	・記述の確認 ・行動観察 ・定期考査
	随筆	徒然草 「高名の木登り」	○			◎	○	a 主人公の言動・行動の展開に興味を持つ。 d 出来事と心情を理解する。「油断することの危険さ」など、面白さを読みとっている。 e 用言の活用条件の基本を理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・定期考査
二学期	物語	平家物語 「壇ノ浦の戦い」	○			◎	○	a 軍記物語という独特の物語に興味を持つ。 d：音読し、和漢混交文のリズムになれる。 e 作品観とその作者について、概略を理解する。	・記述の確認 ・定期考査

	和歌	「百人一首」	○			◎	○	a 和歌の音韻・リズムに興味を持つ。 d 和歌を読みとり、心情を理解する。 e 和歌の修辞法・当時の生活習慣について理解する。	・記述の確認 ・定期考査
	歌物語	伊勢物語 「芥川」	○			◎	○	a 古典の伝奇的な物語に興味を持つ。 d 音読し、リズムに慣れる。内容を正しく読み取る。 e 当時の女性貴族の日常生活を理解する。基本的な助動詞について理解する。	・行動の観察 ・記述の確認 ・定期考査
	歌物語	伊勢物語 「筒井筒」	○			◎	○	a 歌物語という分野に関心を持ち、意欲的に取り組む。 d 感動のポイントで和歌の挿入となる物語の構造を理解する。 e 当時の庶民の日常生活を理解する。	・行動の観察 ・記述の確認 ・定期考査
三学期	漢文入門	「訓読のきまり」 「訓読に親しむ」	○				○	a 漢文学習に意欲的に取り組もうとする。 e 訓点について理解し、書き下し文にできる	・行動の観察 ・記述の確認 ・定期考査
	故事成語	戦国策 「守株」 「蛇足」	○			◎	○	a 話の面白さに興味を持つ。 d 訓点に従って、漢文を正確に読める。 e 漢文の内容を理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b: 話す・聞く能力
c: 書く能力　　d:読む能力　　e：知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。